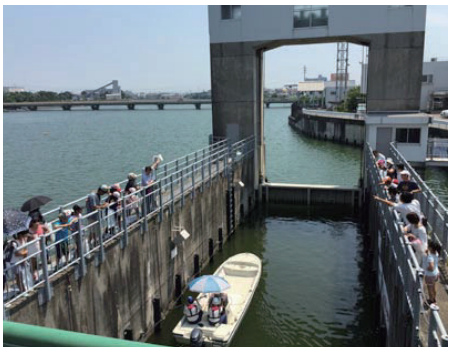
# ３年目となる「まるごと吉野川“魅力再発見”講座」子どもを対象とした講座を初開催!!

## 吉野川の水について子ども達に学んでほしい

吉野川についてさまざまな観点からスポットをあてた「まるごと吉野川『魅力再発見』講座」も3年目。子ども達にもっと深く川と関わってほしいと、8月5日(水)、親子を対象にした初の講座(バスツアー)を開催しました。小学生とその保護者25名が参加し、吉野川の水に関するさまざまな施設を巡って、吉野川上流で生み出された水が下流でどのように利用されているかを学びました。

まず、独立行政法人 水資源機構が管理する旧吉野川河口堰管理所・今切川河口堰の見学からスタート!

今切川河口堰は板野郡北島町と徳島市川内町にまたがる巨大な堰で、総延長２２０・３ｍ。ゲートの開閉で流量や水位を調整して海水の遡上を防ぎ、堰上流の水を用水として供給するほか、洪水時は下流に水を流して水害を防ぐ役割があります。



年間400隻以上の船が通過するという閘門。作業船が甲室に入り、子ども達が見守るなか、無事に通過しました

間近で見ると、まるで要塞のようです

管理所では堰の役割や管理所の仕事について説明を受け、普段は立ち入れない操作室を案内してもらいました。堰の操作方法や、たくさんの機器の役割についての説明に子ども達は興味津々。熱心にメモをとる子や写真を撮る保護者もいました。その後、船が閘門を通る様子を、作業船を使って見せてもらいました。大きな閘門(こうもん)のゲートが上がり、船が無事通過すると思わず歓声が上がりました。

## 川の水はどんなふうに使われるの?

次は、松茂町にある吉野川北岸工業用水道浄水場(徳島県企業局総合管理事務所)へ。吉野川北岸工業用水道は、徳島市川内町、松茂町、北島町、鳴門市撫養町にある22の企業に、一日に10万㎥以上もの水を供給しています。これは※25mプールに換算すると、約250杯分に相当する量だとか。吉野川北岸工業用水道と阿南工業用水道から工業用水の供給を受けている32事業所の製造品出荷額は、県全体の約30%を占めているとか。まさに徳島の工業を支える重要な施設なのです。

浄水場では旧吉野川から取りこんだ水を、濁りをとるなど水質調整をしてから各工場群へ送っています。この日は、沈殿池や排水池、受電設備の見学や、薬品処理による水の浄化実験、脱水機による泥土処理の様子を見学。子ども達よりむしろ保護者の方が熱心に聞き入っていました。もしかしたらお父さんお母さんの働く会社にも、ここから水が送られているのかもしれませんね。

非常用にガスタービン発電機を備えており、電力会社から電力供給がストップしても、工業用水が供給できる仕組みになっています

## 有名なあのドリンクは吉野川の水仕込み!?

ツアーの最後は、ポカリスエット、オロナミンCなどで有名な大塚食品株式会社徳島工場を見学しました。世界19カ国・地域で愛されるポカリスエットのおいしさの秘密は良質の「水」。自然環境がよく、良質の水が安定供給できる土地を選んで工場を建てているとか。吉野川流域の豊かな水に恵まれた徳島工場はまさに理想的な環境。さっき見学した浄水場から送られた水が、ここで使用され製品になるんだなと、実感を持って見学することができました。

私達の生活を潤す水。その水を支える施設を見学し、水の大切さを再認識した一日でした。

※25mプールは「長さ25m、巾16m、深さ1m」とし換算した数値。